

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	分子イメージング研究戦略推進プログラム		担当部局庁	研究振興局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度～平成26年度		担当課室	研究振興戦略官	研究振興戦略官 阿蘇 隆之			
会計区分	一般会計		政策・施策名	科学技術の戦略的重点化 X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組				
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	生体内分子の機能や投与薬物の動態などを生物が生きたままの状態画像化する分子イメージング技術を活用し、創薬プロセスの革新及び疾患診断の高度化等を図る。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	分子イメージング技術を医療へ応用すべく、創薬候補物質探索拠点・PET疾患診断研究拠点と、大学・病院・企業等の連携により構成される研究体制を構築し、技術の実証に向けた共同研究開発を実施する。 ①難治がん診断治療分野、②認知症診断治療分野において、臨床応用に向けたPOC(Proof of concept: 基礎研究で得られた治療学的コンセプトの証拠)を取得することを目標とする。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	530	500	500	500	800	
	執行額	529	499	499	-	-		
	執行率(%)	99.8%	99.8%	99.8%	-	-		
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値(25年度)
	臨床応用に向けたPOCの取得数(累積)			件	0	0	4	8
			達成度	%	0	0	50%	-
	発表論文数		成果実績	本	81	92	103	-
		達成度	(-)	(90)	(100)	(-)	(-)	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		活動実績(当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	-			-	-	-	-	-
				(-)	(-)	(-)	(-)	
単位当たりコスト	論文1本あたりのコスト 6(百万円/本)		算出根拠	単位当たりコスト = H24までの共同研究に係る費用(1,527百万円) / 発表論文数(276本)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	科学技術試験研究委託費	498.4百万円	798.3百万円	新しい日本のための優先課題推進枠 300,000円				
	諸謝金	0.3百万円	0.5百万円					
	職員旅費	0.3百万円	0.3百万円					
	委員等旅費等	0.8百万円	0.7百万円					
	計	499.8百万円	799.8百万円					

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
必要 性の 国費 投入 の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	当事業は、第4期科学技術基本計画及び日本再興戦略等において重要事項として位置付けられており、健康長寿社会の実現に資するものである。したがって、国として事業の進捗を管理しながら推進する必要がある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業 の 効率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先の選定に当たっては、十分な広告期間を設け、HP等で周知した上で公募を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。 なお、委託費の交付決定に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—				
事業 の有 効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	本事業では分子イメージング研究をリードする拠点の技術力を活用することで、がん・認知症の新たな診断・治療法を開発するもので、効率的かつ実効性の高い研究実施体制となっている。また、研究内容については、PD・POにより細かに進捗管理を行うことで、着実な実施に努めている。 なお、本事業については、当初の計画通り着実に成果を上げており、その成果は、論文発表やシンポジウムの開催により、社会に発信され、十分に活用されている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複 排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点 検 結 果	○明確な目標・計画に沿って国の委託事業として実施する政策課題対応型の研究開発であることから、成果報告書の提出、プログラム運営会議により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認し、引き続き事業を着実に推進するよう努める。					
	○第三者の有識者からなる中間評価委員会を開催し、事業の適切な予算配分や計画の見直しの必要性等を検討した結果を踏まえ、選択と集中による効率的な予算配分を行った。また、中間評価を踏まえ、各研究機関とPD・PO意見交換会を開催し、今後の対応について検討した結果を、来年度の事業運営に反映していく必要がある。					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業 内容 の 改 善	1. 事業評価の観点：本事業は、分子イメージング技術を医療へ応用すべく、創薬候補物質探索拠点・PET疾患診断研究拠点と、大学・病院・企業等の連携により構成される研究体制を構築し、技術の実証にむけた共同研究開発を実施する競争的資金であり、契約・執行手続き等の観点から検証を行った。					
	2. 所見：本事業は、平成22年度レビュー等の指摘を踏まえ、臨床試験機関を集約する等、一定の見直しが行われていることは評価できるものの、引き続き、より効率的・効果的な予算執行に努めるべきである。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
執行 等 改 善	平成24年度は、臨床試験機関の集約や各拠点への予算配分の見直しを行った。引き続き、費用の効率化を図るとともに、予算の執行状況を定期的にPD・POを交え共有し、各拠点の研究計画の見直しを行うことにより、より効率的・効果的な予算執行に努める。					
備考						
【事業仕分け】 (事業番号/事業名) 事業番号3-38 競争的資金(ライフサイエンス分野) (結果) 予算要求の縮減(2割~1/3程度) (とりまとめコメント) 分子イメージング研究戦略推進プログラム(第II期)については、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減が5名、そのうち半額程度の縮減が1名、1/3程度の縮減が2名、その他2割減が1名、1割減が1名、予算要求通りが2名であった。これも目標、計画をもっと明確にしたいというのがほぼ同じ評価であった。その他いろいろあったがそれが共通した見方であった。このため、2割~1/3程度の縮減とした。						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0262	平成23年	0252	平成24年	0266

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省
499百万円

諸謝金 0.3百万円
職員旅費 0.1百万円
委員等旅費等 0.5百万円 } を含む

分子イメージング研究拠点・共同研究・人材育成実施機関を審査・選定し、マネジメントを実施

【公募・委託】

A:分子イメージング研究拠点
(全2機関)

(独)理化学研究所
168百万円

(独)放射線医学総合研究所
149百万円

分子イメージング技術に関して、臨床での実証を目指した研究開発を実施 等

【公募・委託】

B:共同研究実施機関
:151百万円
大学等(全19機関)

分子イメージング研究拠点との共同研究の実施

【公募・委託】

C:人材育成実施機関
:31百万円
大学(全5機関)

分子イメージング技術に関して、拠点と連携した人材の育成

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.独立行政法人理化学研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品費	消耗品費	36			
人件費・謝金	人件費	84			
旅費	旅費	1			
その他	外注費(雑役務費)	2			
	印刷製本費 諸経費 等	5			
間接経費		39			
計		168	計		0
B.国立大学法人東北大学			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費・謝金	人件費	10			
その他	外注費 等	4			
間接経費		4			
計		18	計		0
C.国立大学法人岡山大学			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品費	消耗品費	4			
人件費・謝金	人件費	2			
その他	外注費 旅費 等	1			
間接経費		2			
計		8	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人理化学研究所	創薬候補物質探索拠点	168	企画競争	—
2	独立行政法人放射線医学総合研究所	PET疾患診断研究拠点	149	企画競争	—

※「分子イメージング研究プログラム」(第I期:平成17~21年度)開始の際に公募を実施。第I期プログラムにおいて構築した研究拠点を、本プログラムにおいても拠点として活用するため引き続き事業を委託。

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東北大学	特異的プローブによるタウおよびAβ蓄積メカニズムの解明	18	企画競争	—
2	独立行政法人理化学研究所	Aβ代謝・蓄積と炎症反応の相互作用の解明	18	企画競争	—
3	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター	新しい細胞塊培養による癌難治性部位の探索	18	企画競争	—
4	独立行政法人国立がん研究センター	抗がん抗体の適合性評価のための分子イメージング臨床研究	15	企画競争	—
5	財団法人先端医療振興財団	認知症用の炎症PETプローブの臨床開発	11	企画競争	—
6	独立行政法人科学技術振興機構	科学技術振興による研究開発の推進に係る支援業務	10	企画競争	—
7	国立大学法人京都大学	分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発	9	企画競争	—
8	国立大学法人東京工業大学	高解像度酸素分圧直接測定の改良と、CTOSへの応用に関わる研究開発	8	企画競争	—
9	国立大学法人北海道大学	癌幹細胞を標的とした癌根絶療法の創出	8	企画競争	—
10	国立大学法人福井大学	難治性がん治療に向けた機能画像法の開発	7	企画競争	—

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人岡山大学	岡山分子イメージング高度専門人材育成事業	8	企画競争	—
2	国立大学法人浜松医科大学	小動物から霊長類までのPET研究人材育成	8	企画競争	—
3	国立大学法人大阪大学	医薬理工連携によるPET教育研究拠点形成	5	企画競争	—
4	国立大学法人東北大学	連携大学院による組織融合的研究教育の推進	5	企画競争	—
5	国立大学法人北海道大学	医薬工連携を活かしたPET専門人材育成拠点	5	企画競争	—